

喜入地区



肝付氏歴代墓地

番所跡 ▶ばんしょあと

記念物／史跡

【MAP K-23】

喜入から鹿児島に通ずる旧街道筋にあたる。ここでは、通行人を取り締まり、海上を見張る役目を果たしていた。江戸時代の中後期に設けられたのではないかとわれている。



●所在地／鹿児島市喜入瀬々串町 ●交通／あいばす 瀬々串上中バス停 ●駐車場／無

瀬々串浦 ▶せせくしうら

記念物／史跡

【MAP L-23】

瀬々串浜のことで、ここの海岸の素晴らしさ、眺めのよさは、薩藩勝景百図考に「瀬々串浦は喜入浜なり、清砂浄ふして洗ふが如く、峯巒州嶼・遠近濃淡・文明図画の中に観るが如くなれば瀬々奇と名づく」とある。



●所在地／鹿児島市喜入瀬々串町 ●交通／あいばす 瀬々串上中バス停 ●駐車場／無

瀬々串上集落の力石 ▶せせくしかみしゅうらくのちからいし

記念物／史跡

【MAP L-23】

瀬々串上集落公民館に重さ100kgぐらいの石が保存されている。いつのころからか時代は不明であるが、青年たちが力を比べあった石だといわれている。同じ集落の青年だけでなく隣り集落の青年たちもやってきて力を競い合ったといい、青年たちが心

身鍛練につとめていたことがうかがえる。



●所在地／鹿児島市喜入瀬々串町 ●交通／JR 瀬々串駅近く 瀬々串バス停 ●駐車場／無

瀬々串塩屋遺跡 ▶せせくしおやいせき

記念物／史跡

【MAP L-24】

約4000年前の縄文時代後期の指宿式土器や磨製石斧、弥生時代の土器などが出土した。この付近には湧水もあり狩猟のための山にも近く、はるか古代から生活がしやすいと考えられる。またここは庄屋乙名の屋敷があったと伝えられている。



●所在地／鹿児島市喜入瀬々串町 ●交通／JR 瀬々串駅近く 瀬々串バス停 ●駐車場／無

瀬々串小学校跡 ▶せせくししょうがっこうあと

記念物／史跡

【MAP L-24】

瀬々串最後の庄屋であった西原清定は、学問の必要性を力説し、学校設立の気運をもちあげ、明治9年(1876)3月、区民の話合いにより、旧観音(中集落)に茅葺の家を使って開校した。明治10年(1877)9月暴風のために校舎が倒れたので、旧庄屋屋敷の跡地に移転し、教育を実施した。ち

なみに、明治38年(1905)の入学生は26名と記されている。



●所在地／鹿児島市喜入瀬々串町 ●交通／JR 瀬々串駅近く あいばす 瀬々串上中バス停 ●駐車場／無

宮崎神社 ▶みやざきじんじや

有形文化財／建造物

【MAP L-24】

瀬々串中集落、国道226号線沿いに鎮座。旧村社。祭神、創建については全く不明であるが、御神体は軽石9個である。古くから瀬々串の宗廟とされ、2月20日・7月20日・12月10日が祭祀日で、特に12月10日の豊祭は各家庭で手打ちそばを作り遠方から来客もあり、瀬々串のそば切り豊祭として評判が高い。

俊が再興し、宮崎大明神と称せられていたが、明治元年(1868)宮崎神社と改称され、明治9年(1876)、村社に列せられた。



●所在地／鹿児島市喜入瀬々串町 ●交通／JR 瀬々串駅近く あいばす 瀬々串上中バス停 ●駐車場／無

茂柏山存庭院と僧侶墓 ▶もはくさんぞんていいとそうりよばか

記念物／史跡

【MAP L-24】



天文21年(1552)肝付兼演が死去し、その菩提のために加治木に建立した寺院である。文禄4年(1595)肝付家移封のとき喜入へ移し、さらにこの地(瀬々串追立屋敷)に

建てられたもので、真言宗の寺院であったが、慶応3年(1867)に廃寺となった。墓石に「存庭前住全麟祖珍和藏 宝曆五年九月 當院前住徹堂秀山首座 享和三癸亥正月十九日」(宝曆5年→1755年 享和3年→1803)とある。その隣にこの時代、当院を守護した僧侶の墓4基が現存している。



●所在地／鹿児島市喜入瀬々串町 ●交通／JR 瀬々串駅近く あいばす 瀬々串下浜田バス停 ●駐車場／無

駒返り ▶こまがえり

記念物／史跡

【MAP L-24】

応永21年(1414)の島津家8代当主久豊と伊集院頼久との給黎城をめぐる戦いで久豊の軍は利あらずと鹿児島へ引きあげる時、この地で、球磨の相良勢の援軍に会い、士気大いに盛り上がり、駒を返して再び給黎城を攻め頼久に勝つことができたので、この地を「駒返り」と呼ぶようになった。

たとえられている。また、久豊は戦勝を祝して給黎を喜入と改めた。



●所在地／鹿児島市喜入瀬々串町 ●交通／JR草平踏切付近一帯 ●駐車場／無

黒地蔵 ▶くろじぞう

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP L-25】

地域の人々から慕われ、献花が絶えることはない「地蔵菩薩」



黒地蔵には、「永正五年」(1508)と刻まれており、高さは約110cmである。三国名勝図会によると、黒地蔵坂(樋高の北上方)に安置されていたとある。この地は、樋

高の高台にあって絶景の地であり、領主の休憩所が設けられていた場所である。その後、台地の下に道路が弘化4年(1847)に開通し、その道路沿いに安置されていたが、現在は、国道226号の樋高橋脇に移されている。近郊の人々から地蔵菩薩として信仰され、四季の花が絶えることはない。

平成17年(2005)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市喜入中名町 ●交通／あいばす 樋高バス停 ●駐車場／無

柵馬場 ▶はしのきばば

記念物／史跡

【MAP L-25】

近世の喜入では、柵の栽培が領主の厳重な管理、監視のもとに行われていた。瀬々串地区や中名地区に柵の栽培を偲ばせる地名が小字名として残っている。

中名の柵馬場は、国道226号線中名入口の樋高川を渡り、すぐ近くの交差点を右折し、JR踏み切りを左折した通称「上ん馬

場」と呼ばれる上集落公民館一帯の小字名である。



●所在地／鹿児島市喜入中名町 ●交通／あいばす 中名上公民館前バス停 ●駐車場／無

馬頭観音 ▶ばとうかんのん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP L-25】

塞神社の前にある。前は農協倉庫脇にあったが、それ以前の事は分からない。

塞神社は、永禄5年(1562)、喜入季久が建立した。旧名を道祖神神廟(ひょう)と称していたが、明治5年(1872)、麓集落鎮座(ちんざ)の塞神社を合祀して塞神社と改称した。



●所在地／鹿児島市喜入中名町(塞神社前) ●交通／あいばす 中名中央バス停 ●駐車場／無

長野館跡 ▶ながのやかたあと

記念物／史跡

【MAP L-25】

中名小学校西方の長野は、領主肝付氏の別館(長野館)があった所である。ここからの眺望はすばらしく、第5代領主肝付久兼は元禄5年(1692)正月にここに別館を建てて、たびたび遊興(ゆうきょう)してこの景観を楽しんだ。

元禄14年(1701)、田浦義忍上人を誘って遊興したとき、上人は長野からの勝景を詩に表している。

第8代領主肝付兼伯も、宝暦10年(1760)

正月、ここに遊息の亭を建てた。ここからの景観がいかによばらしかったかを知ることができる。



●所在地／鹿児島市喜入中名町 ●交通／あいばす 今別府理容所前バス停 ●駐車場／無

中名鉱山跡 ▶なかみょうこうざんあと

記念物／史跡

【MAP L-25】

明治35年(1902)と大正7年(1918)に試掘(しきくわ)をし、良質の金鉱脈が発見されたため、大正11年(1922)から本格的に採掘を始めた。山すすには製錬所も造られ、1日4tの鉱石を処理していた。昭和17年(1942)には11705tもの生産量があった。その後、金山整備令により翌年休山となった。昭和27

年(1952)から昭和31年(1956)まで少量を掘ったが、閉山となった。



●所在地／鹿児島市喜入中名町 ●交通／中名第三水源地近く ●駐車場／無

キイレッツトリモチ自生地 ▶きいれつちとりもちじせいち

市指定／記念物／天然記念物(植物)

【MAP M-26】

この地で発見されためずらしい寄生植物の自生地



キイレッツトリモチは、明治43年(1910)、当時喜入小学校の教員山口静吾氏がこの地で発見し、牧野富太郎博士によって命名され、世界に発表された。キイレッツトリモチは、トベラやシャリンバイの根元に寄生するもので、茎は直立し、高さは3～10

cm程度である。雌雄同株で花は10月～11月頃に咲きツクシを大きくしたような形で、白色のものと黄色のものがある。

平成17年(2005)、鹿児島市の天然記念物(植物)に指定された。



●所在地／鹿児島市喜入町(喜入総合体育館裏) ●交通／あいばす 喜入支所バス停 ●駐車場／有

刀匠玉置家歴代の墓 ▶とうしょうたまきけれきだいのほか

県指定／記念物／史跡

【MAP L-27】

名刀匠一家の魂が眠る場所



刀匠玉置一平安代は、延宝8年(1680)に玉置一平安貞の嫡子として生まれ、幼少より父に鍛錬の秘訣を習い、長じて谷山波之平の刀匠安行の門人となった。將軍徳川吉宗の命によって、享保6年(1721)の春、江戸浜御殿で妙技をふるい、御腹物二振を

作った。その功により、茎に葵一葉を許され、主馬首に任ぜられた。享保13年(1728)に死去したが、その名刀匠一家の歴代の墓地である。

昭和60年(1985)、鹿児島県の記念物(史跡)に指定された。

なお、「刀銘主馬首一平安代」などの刀は、鹿児島県の有形文化財(工芸品)に指定されている。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／JR 喜入駅近く あいばす 湊田下バス停 ●駐車場／無

旧麓の武家屋敷 ▶もとふもとのぶけやしき

記念物／史跡

【MAP L-27】

給黎城の麓としての面影が残る門と石塀



旧麓は、文禄4年(1595)から肝付氏の居城となっていた給黎城の麓として、政治の中心的な役割を果たしていた地域である。今も往時を偲ばせ、歴史的雰囲気を感じさせる石塀が連なり、湧水水路もあるこの地域に唯一残った牧瀬家の武家門と石塀

は、平成22年(2010)、鹿児島市の景観重要建造物に指定された。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交 通／あいばす ふれあい広場前バス停 ●駐車場／無

肝付氏歴代墓地 ▶きもつきしれきだいぼち

記念物／史跡

【MAP L-27】

幕末に名宰相として活躍した小松帯刀の先祖が眠る



肝付家は、文禄4年(1595)以降、270年あまりにわたって、喜入を治めてきた一族で、幕末に活躍した小松帯刀は11代領主・兼善の三男として生まれている。この墓地は五段からなり、肝付家12代のうち、3代から11代までの領主をはじめ、一族の墓が

ある。また、菩提寺であった玉繁寺代々の住職の墓も見られる。墓石は壮大で豪華なものが多く、五輪塔をはじめ形もさまざまで、刻まれた文字も明瞭である。墓地の上段には、宝永6年(1709)に建てられた首なし地藏菩薩や玉繁寺の住職が記した石碑が残る。

墓地の北側は、肝付家の菩提寺であった玉繁寺の跡であるが、明治2年(1869)に廃寺となり、今は耕地となっている。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交 通／あいばす ふれあい広場前バス停 ●駐車場／無

宮坂神社 ▶みやさかじんじや

有形文化財／建造物

【MAP L-26】

宮地集落に鎮座。祭神不詳であるが、神社に伝わる由緒によると、天照大神を正祀として他に天津神三百余社の大神を併せ祭ってあるという。弘治3年(1557)、領主喜入攝津介季久が建立したと伝えられている。鰐口に「文明五年癸巳二月吉日」とあったとのことであるが、文明5年(1473)は弘治3年より、85年前であり、那賀卿大明神とあるので他社の鰐口を当社に納めたものと思われる。建立より20年後の天正6

年(1578)、喜入季久によって再興された。なお延宝4年(1676)3月、神廟の葺修造が行われている。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／喜入中学校近く あいばす 宮地バス停 ●駐車場／有

玉置一平安代の碑 ▶たまきいっぺいやすよのひ

記念物／史跡

【MAP L-26】

刀匠玉置一平安代は、延宝8年(1680)に、玉置一平安貞の嫡子として生まれ、幼少より父に鍛錬の秘訣を習い、長じて谷山波之平の刀匠安行の門人となった。將軍徳川吉宗の命によって、享保6年(1721)の春、江戸で妙技をふるい、御腰物二振を作った。その功によって、室に葵一葉を許され、主馬首に任ぜられた。安代を敬愛する人たちによって顕

彰碑が昭和35年(1960)に建立された。



●所在地／鹿児島市喜入町(宮坂神社内) ●交通／喜入中学校近く あいばす 宮地バス停 ●駐車場／有

給黎城跡 ▶きいれじょうあと

記念物／史跡

【MAP L-27】

旧麓の西丘陵にある。その昔、伊作平次郎良道の次男有道がここに居城し、姓を給黎と名乗ったと伝えられるが、詳細は不明である。その後、応永18年(1411)伊集院頼久の所領となった。しかし、同21年(1414)島津家8代当主久豊が肥後球磨の城主相良氏の援軍を得て、駒を返し、頼久を攻め、戦勝を祝して、給黎を喜入に改めた。文禄4年(1595)より、代々肝付氏の居城となった。承応2年(1653)、4代領

主兼屋のとき、現在の麓(喜入小学校)に居館を移すまで、ここが麓として政治の中心的役割を果たしてきた。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／あいばす ふれあい広場前バス停 ●駐車場／無

旧麓の香梅ヶ渚 ▶もとふもとのこべがふち

記念物／史跡

【MAP L-27】

旧麓の八幡川に香梅ヶ渚という渚がある。昔、時の領主が家来や侍女と花見の宴を開いた際、香梅という美しい侍女の帯が擦れ合って音がした。殿様をはじめみんなが香梅がおならをしたと思った。その時、家来の1人が「杯を清流に投げ入れて、下流に流れれば潔白が証明される」と叫んだ。香梅がその通りにすると、なぜか杯は上流に流れ始め、渚の地形を知らない香梅は失望し、渚に身を投げてしまった。この哀れな

香梅を偲んで、人々はこの渚のことを「香梅ヶ渚」と呼ぶようになった。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／あいばす ふれあい広場前バス停 ●駐車場／無

愛宕神社 ▶あたごじんじや

有形文化財／建造物

【MAP L-26】

旧市集落、琵琶山の北端に鎮座。無格社。祭神は火産靈神、奥津比古神、奥津比売神の三神。寛文13年(1673)3月、第5代領主肝付久兼が建立し、愛宕大権現を勧請したとある。明治5年(1872)2月、瀬々串籠門神社、中名荒神の二社を合祀した。

や「内城」と呼ばれる山城があった遺跡であろう。

祭祀日は3月24日、7月24日、10月24日である。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／JX日鉱日石石油基地近く あいばす 旧市バス停 ●駐車場／無

伊牟田尚平誕生地 ▶いむたしょうへいたんじょうち

記念物／史跡

【MAP M-26】

伊牟田尚平は、天保3年(1832)5月に旧市に生まれた。長じて尊皇攘夷論者として王政復古に指導性・実践力を発揮した。王政復古の頃、京都に起こった辻斬り事件の薩摩藩の責を引き受け、明治元年(1868)、京都二本松の藩邸で自刃し、この世を去った。その偉業を後世に伝える誕生地碑が、地元の有志により大正12年(1923)

8月に建立された。なお、伊牟田尚平の墓は琵琶山の山腹にある。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／JX日鉱日石石油基地近く あいばす 旧市バス停 ●駐車場／無

琵琶山城跡 ▶びわやまじょうあと

記念物／史跡

【MAP M-26】

肝付家御仮屋跡である喜入小学校の北側の台地を琵琶山という。南北に長く、その形が琵琶に似ているのでこの名がある。北に愛宕城、中央東側に内城、南に琵琶山城があったと伝えられている。しかし、三城とも存続期間、築城者、在城者とも不明で

ある。現在この台地の南側は体育館、運動公園になっている。



●所在地／鹿児島市喜入町(喜入総合運動場前) ●交通／あいばす 喜入支所バス停 ●駐車場／無

招魂社 ▶しょうこんしゃ

記念物／史跡

【MAP L-26】

明治以降の戦争などで国難に殉じた軍人、軍属の英魂を合祀してある。明治40年(1907)に創建された。初めは淵田鎮守丘に建立されていたが、昭和22年(1947)頃に、宮坂神社の境内に奉還された。なお、西南戦争で官軍に従軍し戦死した4名(前田豊秋、八木健一、山口景豊、浜島敦以)

が招魂社に祭られその境内に招魂碑が建立されている。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／喜入中学校近く あいばす 宮地バス停 ●駐車場／有

肝付家仮屋跡 ▶きもつきけかりやあと

記念物／史跡

【MAP M-26】

肝付家の仮屋は、承応2年(1653)、第4代兼屋のとき、旧麓から麓に移った。現在の喜入小学校敷地は、肝付家仮屋の跡で、近隣住民の石塀、門構えなど、学校前の広い馬場とともに当時を偲ばせるものがある。



●所在地／鹿児島市喜入町(喜入小学校敷地内) ●交通／あいばす 喜入支所バス停 ●駐車場／無

白浜屋敷 ▶しらはまやしき

記念物／史跡

【MAP M-26】

肝付家第4代兼屋は、承応2年(1653)12月に居館を琵琶山南麓に移した。この時に最初に従った三家内の一家が白浜家であった。文久2年(1862)の記録で見ると、肝付家の郷土(家中)では5番目の石高であった。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／喜入小学校近く あいばす 喜入支所バス停 ●駐車場／無

善行寺 ▶ぜんこうじ

記念物／史跡

【MAP M-26】

正式な名前を御領山善行寺という。この寺の後の山が御領山である。宗派は浄土真宗本願寺派で、本尊として、阿弥陀如来がある。安置物として、この浄土真宗本願寺派という宗教を始めた見真大師（明治天皇が親鸞聖人を尊敬して与えた名前）の絵や聖徳太子の絵などがある。

ここは初め、説教所（教えを広める所）であったが、明治27年（1894）、長州（今の

山口県）の善行寺というお寺が廃寺になり喜入町に移された。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交 通／あいばす 喜入バス停 ●駐車場／無

上籠城跡 ▶うえごもりじょうあと

記念物／史跡

【MAP L-26】

上籠城は湊田の地にあり、喜入中学校南側に見える小高い丘である。

上籠城が史料として見えるのは、後村上天皇の延元4年（1339）4月21日の上籠城・網屋城の戦いである。この戦いで、北朝方の島津豊後守実忠はその家臣をして守らせた両城を、南朝方の伊集院図書助忠国、その臣村田如庵らの軍勢に攻略され、以後両

城は南朝方の勢力圏に入った。その後、上籠城・網屋城の名は見られない。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交 通／JR 喜入駅近く あいばす 喜入中前バス停 ●駐車場／無

十三仏像 ▶じゅうさんぶつぞう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP L-27】

清凉院の墓地の敷地に、凝灰岩製の、高さ100cm、幅45cmの石塔が建てられており、東側に十三仏像、西側に毘沙門天像が刻まれている。ほぼ完全な形であるが、いつ移動搬入されたかについては不明である。

十三仏とは、初七日から、三十三年忌まで13回の年忌ごとに配される仏・菩薩で、初七日の不動から、釈迦・文殊・普賢・地藏・

弥勒・薬師・観音・勢至・阿弥陀・阿闍・大日・虚空蔵をさす。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交 通／JR 喜入駅近く あいばす 湊田下バス停 ●駐車場／無

戦没者慰霊塔 ▶せんぼつしゃいれいとう

記念物／史跡

【MAP L-27】

戦没者慰霊塔は日清・日露の戦争から第二次世界大戦までの戦争で亡くなられた方々の霊を祭っている。喜入地区からも多くの人々が軍人として祖国のために出兵した。戦死した人々の英魂は宮坂神社境内にある招魂社に祭られており遺族会を中心に毎年春秋2回祭典が行われている。昭和40年(1965)2月、遺族会一同により戦没者

慰霊塔が建立され戦没者の芳名が保存されている。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／JR 喜入駅近く あいばす 刈田下バス停 ●駐車場／無

萬松山清涼院跡 ▶ばんしょうざんせいりょういんあと

記念物／史跡

【MAP L-27】

寛文11年(1671)、肝付氏第4代領主兼屋の夫人が死去し、菩提寺を鹿児島市の松原山中に建立した。さらに、享保元年(1716)1月、菩提寺を喜入に造ることを決め、造営に着手。3月20日竣工し、清涼院と称した。明治2年(1869)廃寺となる。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／JR 喜入駅近く あいばす 刈田下バス停 ●駐車場／無

千手観音 ▶せんじゆかんのん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP L-26】

清涼院跡に安置されている千手観音は、享保11年(1726)9月1日、兵具所屋敷城戸入馬場に建立されたとあり、現在の場所へ移されたのはいつかはっきりしない。高さは約80cmあり、「享保十一年八月 奉建立為国家安全武運長久」(享保11年→1726)と刻まれている。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／JR 喜入駅近く あいばす 刈田下バス停 ●駐車場／無

涸田の首無し地蔵 ▶ふちだのくびなしじぞう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP L-27】

享保9年(1724)の記録に「涸田地蔵の
名見ゆ、今加世田街道の側に建立す」と
あり、鰐口の銘に、「薩州給黎院西明寺地
蔵堂御宝前于時永正二年」とある。地蔵は
明治の末までは下の墓地の通路側に建て
ていたが、大正3年～8年(1914～19)、県
道喜入一知覧一加世田線が開通のとき、県
道涸田川橋の近くに移された。その後、昭
和のはじめ、現在の場所に移された。

地蔵の高さは約56cmで、頭部がないのは
廃仏毀釈の影響と考えられる。涸田では、

昔、痲瘡の神といわれ、明治以降は「イボ
の神様」といわれ、子どもにイボができた
時、自分の年の数だけ大豆を供えると治る
といわれた。



●所在地/鹿児島市喜入町 ●交 通/あいばす 涸田バス停 ●駐車場/無

旧麓の田の神 ▶もとふもとのたのかみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP L-27】

像の高さは約57cm、右手に杓子、左手に
スリコギを持ち、頭にはコシキのシキをか
ぶっている神職型の田の神である。元文元
年(1736)との記録がある。

最初は旧麓天神の住宅の近くにあった
が、現在、旧麓ふれあい広場の道路側に移
されている。

むかしは苗代をする時と、収穫の時には盛

大な祭りがなされたそうであるが、現在は南
方神社の六月燈と同時に祭りを行っている。



●所在地/鹿児島市喜入町 ●交 通/あいばす ふれあい広場前バス停 ●駐車場/無

南方神社 ▶みなみかたじんじや

有形文化財／建造物

【MAP L-27】

旧麓集落西南方に鎮座。ここは給黎城の
南側の地である。社格は村社。祭神は建
御名方神・八坂刀売命。御神体は鎌であ
ったが明治5年(1872)に棄失された。南方
神社は旧名を諏訪上下大明神と称し、建御
名方神と事代主命を祭神としていたが、明
治5年(1872)、県から神祇官が臨検して、
社名を南方神社と改称し、祭神は信州諏訪
の上社下社と同じく、建御名方神と八坂刀

売命としたものである。大正7年(1918)
2月には社殿を改築し、昭和40年(1965)
に現在の社殿を新築した。



●所在地/鹿児島市喜入町 ●交 通/あいばす ふれあい広場前バス停 ●駐車場/有

鹿籠殿墓 ▶かごどんぼか

記念物／史跡

【MAP L-27】

喜入氏の墓はほとんど散失したが、喜入氏第5代季久が枕崎市の鹿籠の領主に移封されたことから、第4代忠俊とその妻の墓を「鹿籠殿墓」とよんでいる。現在、傑心寺墓地上の民間墓地に置かれている。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／JR 喜入駅近く あいばす 湊田下バス停 ●駐車場／無

鎮守神社 ▶ちんじゅじんじゃ

有形文化財／建造物

【MAP L-27】

湊田集落に鎮座。祭神不詳。無格社。神社の建立の場所、年代については明らかでない。最初から現在の場所との説、明治40年(1907)招魂社建設のため現在地に移されたとの説がある。

昭和11年(1936)に鎮守菌・湊田家・上笹家・地頭菌家の氏神が鎮守神社に合祀され、

湊田の人はすべて鎮守神社の氏子となった。祭祀日は3月24日。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／あいばす 湊田バス停 ●駐車場／有

肝付氏二代兼篤の墓 ▶きもつきしにだいかねあつのはか

記念物／史跡

【MAP L-27】

肝付氏二代兼篤の墓は、香梅ヶ淵の近くの向へ山の中にある。兼篤は、慶長14年(1609)6月29日に亡くなっている。墓石銘は傑心大英居士、左隣に夫人の墓もある。



●所在地／鹿児島市喜入町 ●交通／あいばす ふれあい広場前バス停 ●駐車場／無

小田代競馬場跡 ▶おだしろけいばじょうあと

記念物／史跡

【MAP K-27】

大正5年(1916)ここに競馬場が造られ、毎年春秋の2回盛大に競馬が行われていた。この日には「喜知親睦会」といって喜入と知覧の有志が集まり、喜入からは海の幸を、知覧からは山の幸の料理を持ち寄り、喜入側は山に向い、知覧側は海に向かって、お互い向き合って座り、競馬を見なが

ら酒をくみかわし、語り合って楽しく和やかな1日を過ごしたというのである。



●所在地／鹿児島市喜入一倉町 ●交通／小田代交差点近く 小田代入口バス停 ●駐車場／無

喜入牧の苜蓿 ▶ きいれまきのおおあと

市指定／記念物／史跡

【MAP K-27】

江戸時代に行われていた馬追い行事の様子を現代に伝える史跡



鹿児島市観光農業公園の周辺は、喜入牧と呼ばれ、古くから馬の放牧が盛んであった。旧牧、外戸ノ口、外戸ノ下など、牧に関する字名が残っているほか、観光農業公園には苜蓿とよばれる土塁状の馬を追込む場所もほぼ完全な形で残っている。江戸期

に喜入牧は肝付氏の私営牧となり、馬の選定のための馬追い行事が年一回行われていたとされる。

馬追い行事は地域の一大行事(祭り)としての面もあり、村々の多くの人々が観衆として集まったほか、領主肝付氏も鹿児島城下から帰郷して観覧するのが通例であった。万延元年(1860)には小松帯刀も観覧したとの記録が残っている。

平成27年(2015)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市喜入一倉町(観光農業公園管理棟近く)

●交通／あいばす 交流体験館バス停

●駐車場／有

小田代馬頭観音 ▶ おだしろばとうかんのん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP K-27】

小田代にある馬頭観音は、武士たちが乗馬の稽古に励んだ涼松(通称馬乗り馬場)にあったもので、大正5年(1916)に小田代競馬場に移され、さらに現在の場所に建てられたものである。同じ所に野元の早馬神社にあったものもある。



●所在地／鹿児島市喜入一倉町

●交通／小田代入口バス停

●駐車場／無

小田代の供養塚 ▶ おだしろのくようづか

記念物／史跡

【MAP K-28】

小田代集落の畑の土手にたてられている。高さ40cm、幅15cm位の山川石でつくられた碑である。永禄の頃(今から約450年位前)仏様を信じる人々が、家内の息災や村人の安全、五穀豊穡などを祈念して建立されたものと思われる。



●所在地／鹿児島市喜入一倉町

●交通／あいばす 小田代バス停

●駐車場／無

一倉の製鉄炉跡 ▶ひとくらのせてつろあと

記念物／史跡

【MAP K-27】

鹿児島市観光農業公園の南側の2号遊歩道から入った傾斜面に、江戸時代末期から明治初期とみられる溶鉱炉跡の切石の石組みが残されている。周辺には、炭焼きの窯跡や送風用水車のための水路跡、金池の跡もあり、谷間には多量の鉄滓が堆積している。これは一貫した精錬施設であり、近世の喜入の産業を知るうえで貴重な遺構である。なお、藩政時代からの喜入の海岸は、

たたら製鉄のための優良な砂鉄の供給源であった。



●所在地／鹿児島市喜入一倉町(交流体験館上 あずま屋奥) ●交通／あいばす 交流体験館バス停 ●駐車場／有

小田代の山之神 ▶おだしろのやまのかみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP K-28】

小田代の山之神は、安永7年(1778)、第9代領主肝付兼満が奉詞した記録があり、石祠の表面に、「寄進者中野助左衛門、南之儀陽同与平」とある。御神体は自然石で、槍が供えてあり、集落の山裾に鎮座している。



●所在地／鹿児島市喜入一倉町 ●交通／あいばす 小田代前村バス停 ●駐車場／無

白灰焼窯跡 ▶へやきがまあと

記念物／史跡

【MAP M-27】

白灰焼窯跡は通称「ヘタツゴヤ」と呼ばれ、国道226号線沿いにある。いつのころから始まったか不明であるが、三国名勝図会にすでに紹介され、また、正徳3年(1713)に白灰の官物専売の記録がある。窯の構造は、高さ3m、幅5～6mの角石をつみ上げ、上部に径3m位の円形の穴をあけ、その下部にロストルを取り付け、ここで貝(モクハチアオイガイ)を焼いていたものである。今でもその原料は多くある

が、安価な消石灰に押され、昭和のはじめから生産中止となった。



●所在地／鹿児島市喜入前之浜町 ●交通／喜入の里バス停 ●駐車場／無

前之浜二重橋 ▶まえのはまにじゅうばし

有形文化財／建造物

【MAP M-28】

貝底川の下流部に架かる2連アーチ橋の貝底橋である。明治43年(1910)に鹿児島から山川への旧街道(建造時は県道)に架けられ、昭和36年(1961)に新しく国道が造られた際、下流に川上橋が架けられたため、交通量は少ない。橋面はコンクリートで拡幅され、左岸側のアーチ内部や中央橋脚周りもコンクリートで補強されている。橋を構成する石材は南薩地域で産出される赤みを帯びた凝灰岩である。二重アーチの

装飾は甲突川五石橋の技術を受け継いでいると考えられる。全長は16.2m、幅員は4.1mである。



●所在地／鹿児島市喜入前之浜町 ●交通／あいばす 前之浜郵便局バス停 ●駐車場／無

水神社 ▶すいじんしゃ

有形文化財／建造物

【MAP M-28】

前之浜川上集落に鎮座。祭神は弥都波能売命。無格社。川中集落庵山に鎮座していたが、大正中期現在地に遷宮した。前之浜宇都の口の鎮守神社、同じく森神社を明治42年(1909)11月水神社へ合祀した。水神にふさわしく神社の下の学校の敷地内に自噴の池があり、年中水が絶えることがない。



●所在地／鹿児島市喜入前之浜町 ●交通／前之浜小学校近く JR 前之浜駅 ●駐車場／無

前之浜の比丘尼定阿五輪塔 ▶まえのはまのびくにじょうあごりんとう

記念物／史跡

【MAP M-28】

前之浜川中集落の南、竹林の中にある。4基の中の1基の火輪正面に「比丘尼定阿聖霊・正和元年壬子十月七日生年四十六扼去」と刻まれている。鎌倉時代末の正和元年(1312)で、当時の給黎資保入道保宇の夫人ではなかろうかと推察される。



●所在地／鹿児島市喜入前之浜町 ●交通／JR 前之浜駅近く あいばす 前之浜駅前バス停 ●駐車場／無

鈴の田の神 ▶すずのたのみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP M-28】

喜入地区に6体ある田の神の1つで、高さは約42cm、鈴集落センターの近くにある。この田の神は、宝暦8年(1758)に造られたとされるが、今は首無になっている。いつ首がなくなったのかは不明である。



●所在地／鹿児島市喜入前之浜町 ●交通／あいばす 鈴バス停 ●駐車場／無

鈴のアツカドン ▶すずのあつかどん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP M-28】

アツカドンと呼ばれているのは、秋葉大権現のことで、火伏せの神である。アツカドンは町内各地に祭られているが、いずれも集落を見渡すことのできる高い丘の上にあるのが普通である。鈴集落のアツカドンは下木場田の丘の上にある。近くに仏像が

あるが、これは下方の田地にあったものを移したものである。



●所在地／鹿児島市喜入前之浜町 ●交通／鈴集落センター近く あいばす 鈴バス停 ●駐車場／無

鈴の虚空蔵菩薩 ▶すずのこくうざうぼさつ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP M-28】

鈴集落の西方小高い岡に虚空蔵菩薩が祭られており、「元文元年八月吉日」(元文元年→1736)の銘が刻まれている。虚空蔵菩薩は大空のように広く、限りない知恵と慈悲をもたらず菩薩である。

鈴集落では、古来より痲瘡の神として尊

崇され、かつては、町外からも参拝者が訪れていた。



●所在地／鹿児島市喜入前之浜町 ●交通／あいばす 鈴バス停 ●駐車場／無

米倉城跡 ▶よねくらじょうあと

記念物／史跡

【MAP N-29】

米倉集落公民館の後ろの岡はかつての古城跡であり、集落の民家には、この地を治めた人のものではないかと思われる銅鏡(薩原光永と刻)が保管されており、他にも落人の遺物ではと称せられる鎧・刀剣・兜などが大事に保管されていたという。

紹黎氏により治承初期(1177年)頃に築

城されたとされるが、詳細については不明である。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 米倉バス停 ●駐車場／無

北限のメヒルギのマングローブ林, 鹿児島市唯一の特別天然記念物

熱帯及び亜熱帯の泥土の堆積する波の
だやかな入り江や河口の淡水と海水の混じ
りあう潮間帯には、マングローブとよばれ
る森林が発達する。

リュウキュウコウガイは、マングローブ
を構成するヒルギ科の一種で、果実が琉球
のこうがい(かんざし)に似ているところ
から名付けられたが、現在はメヒルギと呼
ばれることが多い。

メヒルギの種子は果実の中で発芽し、母
樹から養分をとって成長し一定の大きさに
なると地上に落下することから胎生植物と
いわれる。潮流によって移動してくぼみ等
に定着すると発根して立ち上がり、やがて
幼苗になる。

メヒルギの自然分布は、東南アジアから
南西諸島(奄美大島、屋久島、種子島など
を含む)および薩摩半島までで、南西諸島
のメヒルギは高さ4~7m程度に成長する
が、喜入は北限地で、高さは2m程度のも
のが多い。

なお、このメヒルギの由来については、
慶長14年(1609)島津家18代当主家久の琉
球出兵に従軍した喜入の領主肝付氏の家臣
が持ち帰ったものとする説もあるが詳細は
不明である。

大正10年(1921)、国の天然記念物に、
また昭和27年(1952)には国の特別天然記
念物(植物)に指定された。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交 通／あいばす 米倉バス停 ●駐車場／有

帖地の田の神 ▶ ちょうちのたのかみ

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP M-30】

帖地集落の田んぼを見守り続ける



帖地集落の西方の田んぼの土手に鎮座している。

像の高さは83cm、台座の高さは40cmで、凝灰岩製の僧型の田の神である。左手には

杓子、右手には梶を持っていると思われるが、風化していて明らかではない。

衣の袖や裳には多くのひだがあり、腰をかけたような姿の田の神である。

平成17年(2005)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 帖地公民館前バス停 ●駐車場／無

帖地の五輪塔 ▶ ちょうちのgorintou

記念物／史跡

【MAP M-30】

帖地の五輪塔は3基並んでいる。いずれも逆修塔であるが、いつ頃造られたかは不明である。

五輪塔の高さは、右が138cm、中央が124cm、左が141cmである。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 帖地公民館前バス停 ●駐車場／無

帖地遺跡 ▶ ちょうちいせき

記念物／史跡

【MAP N-30】

平成7年(1995)度から平成10年(1998)度にかけての調査で、約29000年前に堆積したシラスの下から、小型のナイフ形石器や台形石器が出土した。また、その上層の約20000年前の地層からは剥片尖頭器を彫器に転用したものなどが出土した。さらに縄文時代草創期の遺物とされる土器片、

石鏃(矢じり)、石槍、石斧等が同一地層から出土して日本で初めての事例となった。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 帖地公民館前バス停 ●駐車場／無

帖地の馬頭観音 ▶ ちょうちのばとうかんのん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP M-30】

馬頭観音は馬頭明王または馬頭大王ともいわれている。仏法では悪人や怨みのある者を、降伏させる修法の本尊としているが、民間では馬の無病息災や旅の無事を祈る守護神として崇拝されている。帖地の馬頭観音は、帖地墓地の前にあり、現在でも

集落民の信仰が厚く花・水を供えている。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 帖地公民館前バス停 ●駐車場／無

帖地の山の神 ▶ ちょうちのやまのかみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP M-30】

山の神は荒神とも、または女神ともいわれ、自然の樹木や岩石が御神体となっている。帖地の山の神は、創設は不明であるが、現在集落の山中の大きな岩石の陰に祭られている。御神体は、その大きな岩石で檜が供えてある。帖地集落では、この山の

神を集落神として信仰している。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 帖地公民館前バス停 ●駐車場／無

川畑の発電所跡 ▶ かわばたのはつてんしょあと

記念物／史跡

【MAP N-30】

川畑の東方、田貫川沿いの田園に水車があり、その一つは禰答院家のもので、特に帖地の金山に送電するものであったといわれている。古老の話によると、坑内には裸電球がついていたという。発電所が作られたのは、明治40年(1907)頃で、非常に古いものである。禰答院家の鉱石は、田貫海

岸まで馬で運ばれ、西陽丸(禰答院どん船)で串木野に運んでいたといわれる。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 川畑バス停 ●駐車場／無

井穴洞窟 ▶ いあなどうくつ

記念物／史跡

【MAP M-30】

標高250mの山地にある洞窟である。洞窟内から古墳時代の成川式土器片が出土している。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／吉見山近く 一般県道 飯山・喜入線 林道 吉見線起点(看板あり)より林道に入り、井穴洞穴の案内(標柱)に従い、小道を200m上り右側 ●駐車場／無

道秀の墓 ▶みちひでのほか

記念物／史跡

【MAP N-29】

米倉集落公民館の上段、かつての羽出島神社のあった場所に、墓碑と思われる自然石塔婆1基と六地藏1基がある。自然石塔婆1基は平家流落の士と伝えられる道秀の墓で、前面に「道秀歎心常喜信士」と刻まれている。道秀は怪力無双の人で、竹を割ってタスキにして強弓を引いたとも、また米倉の祖とも伝えられ、地域の信頼厚く、彼が死んだとき村人は嘆き悲しみ、そ

の徳を慕って神社の境内にこの墓を建立したといわれる。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 米倉バス停 ●駐車場／無

米倉神社（羽出島神社） ▶よねくらじんじゃ（はでしまじんじゃ）

有形文化財／建造物

【MAP N-29】

生見の米倉集落に鎮座。無格社。祭神、創建等の由来については不明であるが、建久年間（1190～1199）、給黎を領した兵衛尉有道の祖、村岡家が肥前羽島に居住していたことから羽島権現をここに祭ったのではないかと考えられる。御神体は、昔、暴風雨から集落を守ってくれたと伝えられる軽石と石斧6個である。神社は遷座3回

で、平成8年（1996）7月、現在地に移転した。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 米倉バス停 ●駐車場／無

一里塚 ▶いちりづか

記念物／史跡

【MAP N-29】

米倉集落の南、国道226号線沿いにある。明治13年（1880）1月、鹿児島から谷山間、谷山から喜入、喜入から山川方面へと道路が整備されたとき、里程と方向を示したもので、道程1里毎に石柱を立てて旅の便をはかったものである。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 米倉バス停 ●駐車場／無

生見の田の神 ▶ぬくみのたのみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP N-30】

喜入地区に6体ある田の神の一つで、高さは約30cmである。大きなコシキのシキをかぶった坐像で、大きな杓子を持っている。建立年代は不明である。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 生見小学校前バス停 ●駐車場／無

龍王山源廣院跡 ▶りゅうおうざんげんこういんあと

記念物／史跡

【MAP N-30】

寛文4年(1664)、肝付氏5代領主久兼の弟、阿多撰津介忠朝(法名 源廣院本居士)の霊を弔うため、家臣白浜賢右衛門の請願で源廣院が建てられた。忠朝に嗣子がないのを悲しんで、その霊を弔ったものである。慶応3年(1867)に廃寺となる。

なお、ここに一体の観音像が安置されている。高さは約74cmである。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 生見小学校前バス停 ●駐車場／無

田貫の恵比寿 ▶たぬきのえびす

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP N-30】

恵比寿(蛭子、事代主命)は、^{おおくにぬしのみこと}大国主命(大黒様)の三男で、国を^{あまてらすおみのみかみ}天照大神にゆずられた後、悠々と釣りをされていたので、夷三郎といわれ、大国主命とともに財福の神とされた。生見田貫集落では豊漁をもたらず神として、毎年7月5日エバス祭を行い豊漁と集落の平穏を祈願している。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／JR 生見駅近く あいばす 田貫バス停 ●駐車場／無

上久保の水神 ▶かみくぼのすいじん

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP N-30】

古くから農民は稲を实らせる雨は竜が降らせるものと信じ、水神を竜神として信仰し、田の神は竜神が支配するものと信じてきた。生見上久保集落では、初めは氏神・地神もちの人たちが11月13日に祭りを行なってきたが、現在では集落で管理するようになっている。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／JR 生見駅近く あいばす 田貫バス停 ●駐車場／無

久保園の石祠 ▶くぼそののせきし

記念物／史跡

【MAP N-30】

古久川集落久保園の中心あたりの森の中にある社で、中央に氏神（産土神）、右側に観音菩薩、左側に馬頭観音が並んでいる。

氏神には延享五年（1748）、観音菩薩には宝暦十一年（1761）と刻銘されている。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 古久川集落センターバス停 ●駐車場／無

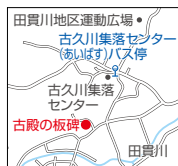
古殿の板碑 ▶ふるどののいたび

記念物／史跡

【MAP N-30】

板碑は安山岩で高さ118cm、幅下部で29cm、本体のみで台石はなく、身部中央上部に梵字が刻まれている。板碑の右側の一番高い石の上に祠があるが何を祭っているかわからない。また板碑の根元には五輪塔や空風輪、地輪、そして相輪などが無造作に置かれている。なお、板碑の建っている

帯を、「アングドンヤシキ」と呼んでいる。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 古久川集落センターバス停 ●駐車場／無

古殿の田の神 ▶ふるどののたのかみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP N-30】

喜入地区に6体ある田の神の一つで、台座を含めた高さは38cmと小さいものである。右手に杓子、左手に数珠を持ち、右ひざを立てている。年代は不詳である。



●所在地／鹿児島市喜入生見町 ●交通／あいばす 古久川集落センターバス停 ●駐車場／無

浜田乙名の米のとぎ汁

分限者(ぶげんしゃ)くらべ

江戸時代、薩摩藩には「門割」という独特の制度があった。

門割制度とは農民を数軒から多くて20軒程度のグループに分けて支配する制度である。

そのグループには地名などからとられた門名という名前が付けられ、門の頭である名頭とその配下に置かれた名子があった。

当時、喜入郷の肝付氏時代、瀬々串にも九つの門があり、今吉門、前原屋敷、今村屋敷、小村屋敷、川原屋敷、追立屋敷、藪屋敷、内木場門、浜田門に分かれていた。その門、屋敷には、それぞれ一定の田や畑が分けられ、門、屋敷内の農民が働いていた。

その門や屋敷の総元締めをするのが乙名であり、代々世襲するのが通例となっていた。

その乙名の中でも特に裕福な生活をしていたのが、浜田乙名であったようである。

浜田乙名の風間は近郷にまで広く伝えられていたことであった。

ある年のこと、向こん島、今の大隅半島の根占にも裕福な生活をしている乙名がいた。

「薩摩半島に私と同じひこばっかいの、ぶげんしゃどん、金持ちがおるっ聞いたどん、ほんのこっじゃろかい？ これや、いっと出かけて行って見比べてみらん」とぶげんしゃ比べをする為に、



根占乙名が瀬々串にやってくることに
なった。

当日はおだやかな日よりで、波風のない海を渡って瀬々串の浜辺に近づいてみると、岸から沖合十間(180メートル)くらいの浜辺一帯は乳白色をした海水が漂っていたのであった。

不思議に思った根占乙名が、沖合で釣りをしていた小舟に近づいて、乳白色の理由を尋ねた。漁夫が言うには、「はい、こいはなあ、浜田乙名のところで働く人たちの、屋飯の米のとぎ汁が、流れ出ておいもんすところです」と話した。

この漁夫の話聞いた根占乙名は顔色を変えて、これだけの米のとぎ汁が出るようであれば、相当な使用人を使って豪華な生活をしているのであろう。

とうてい私どもの及ぶところではない

と舌を巻いて、陸にも上がらずに帰っていったという。

実は、この漂っていた乳白色の海水は、米のとぎ汁ではなかった。浜田乙名の屋敷の前を流れている小川は、その源が白粘土の層からの湧水であり、その白粘土が溶けて流れ出していたものであった。

鹿児島市にはこの他、「楠公サアが頼っちゃっ」(松元地区)や「藤野村のかねさっどん」(桜島地区)、「妙見権現の猿と谷口の迫ん蟹どん」(郡山地区)、「稚児が滝ものがたり」(谷山地区)などたくさんの伝説や民話が残っている。これらは各地区の郷土誌などに掲載されている。

